



日本バイ・デジタルO - リングテスト 医学会ニュース

No.12 2002年11月15日発行

〒830-0018 福岡県久留米市通町 111-18 北島ビル 302号

TEL:0942(38)4181 FAX:0942(37)4131 e-mail: o-ring@kurume.ktarn.or.jp

URL: <http://www2.ktarn.or.jp/~o-ring/index.html>

第18回国際鍼・電気治療学会報告

2002年10月17日(木)~20日(日)の4日間、ニューヨークのコロンビア大学の DAG HAMMARSKJOLD LOUNGE で、第18回国際鍼・電気治療学会が開催されました。世界各国(ヨーロッパ、トルコ、中南米、日本、台湾、香港、上海 etc.)から、参加者が集い、多くの研究発表が行われました。鍼、電気治療、経絡及びバイ・デジタルO - リングテストについて多数の発表が行われました。日本からも下津浦康裕先生、藤巻五郎先生、麻生智洋先生、川畑力丸先生及び林原生物化学研究所の福田恵温氏の発表がなされ、活発な質疑応答がなされました。他にも竹谷徳雄先生、前田華朗先生、大畑直輝先生御夫妻、福原信子先生が、日本から参加されました。

また、鍼治療、顔面及び舌の診断、癌のスクリーニング、アルツハイマー病のスクリーニングやデモンストレーションの時間も多くとられて、参加者が関心を示していました。



Xiao Ding Cao 先生の講演



6 Minutes Screening of Alzheimer's Disease



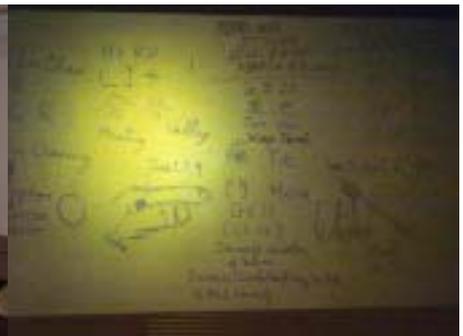
Andrew Fisher のデモンストレーション



Dominic Lu 先生の講演



麻生智洋先生の講演



true LI4 についての解説



藤巻五郎先生の講演



福田恵温先生の講演



Avraham Henoch 先生の講演



2 Minutes Screening of Cancer



川畑力丸先生の講演



Klinghardt 先生のデモンストレーション



Pontinen 先生のレーザー治療のデモンストレーション



下津浦康裕先生の講演



学会に参加した日本の先生たち



大村恵昭先生宅を訪問した日本の先生



大村先生の寝室



O - リング現象を発見された部屋



事務作業をされる部屋

2003 年も 10 月に第 19 回国際鍼・電気治療学会が開催されます。日本の先生達も、発表しに来て下さいとのこと。

日本と違って、大村恵昭先生を支援する人達が余りにも少ないというのが、現在のアメリカの実情です。国際学会前だというのに、大村先生が一人で、参加者や speaker との電話での打ち合わせ、参加者のホテルの手配・予約、プログラム作成等をやっておられ大変、御苦労しておられました。また、コンピューターを入力するコロンビア大学の学生が週に1日～2日しか来ないため、プログラムの入力も滞っているという状態で、この現状では、大村先生が、なかなか論文を執筆できないという印象でした。時々、日本人の患者さんが手伝いに来ますが、コンピューターが扱えないので、DM 発送してもどってきた書類の整理とか、会場での受付作業とかを遅くまで手伝ってもらおうというのがやっとの有様です。今回、国際学会のために、3年前くらいのニューヨークの電話帳から physician を抜き出して、宛名を書いて、参加を呼びかけるのも日本バイ・デジタルO - リングテスト協会からラベルの打ち出し、発送の支援をしましたが、かなりの数、転居先不明等でもどってきていました。大村先生のコンピューターも Macintosh の古いモデルで、28.8k の FAX モデムでインターネットをされているという状態で、国際学会の最中に、古い ibook に移行し、56k でインターネットができるようになった状態で、ADSL 等のブロードバンドに早く移行しないと仕事ができないという感じでした。ブロードバンドの環境で、アメリカに数名、パソコンを使える協力者がいれば、physician の list もインターネットから最新のものを地道に拾い出すことができるし、同時に e-mail リストがあれば、一斉に案内を出すこともできます。この作業は、日本のO - リングテスト協会の江島さんに、毎日コツコツとインターネットで physician の list を収集して、ラベルが出せるようにしたり、パワーポイントで発表原稿を作ったり、日本で英語で作成した資料を e-mail で送って支援するという、毎日コツコツと地道にやれば、できるということをお願いしても無理だという以上に、New York で大村先生を支援するという体制がなくて、悲しい次第です。大村先生には、O - リングテストの学問的体系をまとめてもらったり、後継者の育成等、様々なことを精力的にやっていただかなくてはならないのに・・・・。是非、日本から大村恵昭支援の会でも結成して、支援しなくては大変だということを今回、痛切に実感させられました。

そのために提案があるのですが、

1. 大村先生に、常時タイプを打ったり、事務作業をできる人をつける。医学や生化学のバックグラウンドがあって、大村先生が口頭でしゃべられることを、コンピューターに、すぐ入力できるような、常設の秘書をおいてもらうために、日本から資金的援助をする。
2. コンピューターが Mac だけでなく、Windows パソコンやスキャナー等の機材を整えて、事務作業が効率よく進むようにする。そのための機材をそろえてもらう資金を日本から送る。
3. 日本の先生で、1～2カ月 New York に行って、O - リングの研修をしながら、事務作業を手伝える先生を募る。

以上の3つが思いつくのですが、この他にもアイデアがあればO - リング事務局まで、御連絡くだされば幸いです。

今回、私も3週間、手伝いましたが、O - リング協会に英語の e-mail を送っても、対応してくれなくて困りました。

(ORT 生命科学研究所 大城素)

訃報

日本バイ・デジタルO - リングテスト医学会の発展に貢献された宗重博先生(享年48歳)が、2002年10月31日午前2時に逝去されました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

2003年日本バイ・デジタルO - リングテスト協会活動予定

1 . 2003年4月セミナー

久留米

東京

2 . 2003年7月 第13回医学会

友の会講演(1000名)

3 . 2003年10月 第19回国際鍼・電気治療学会